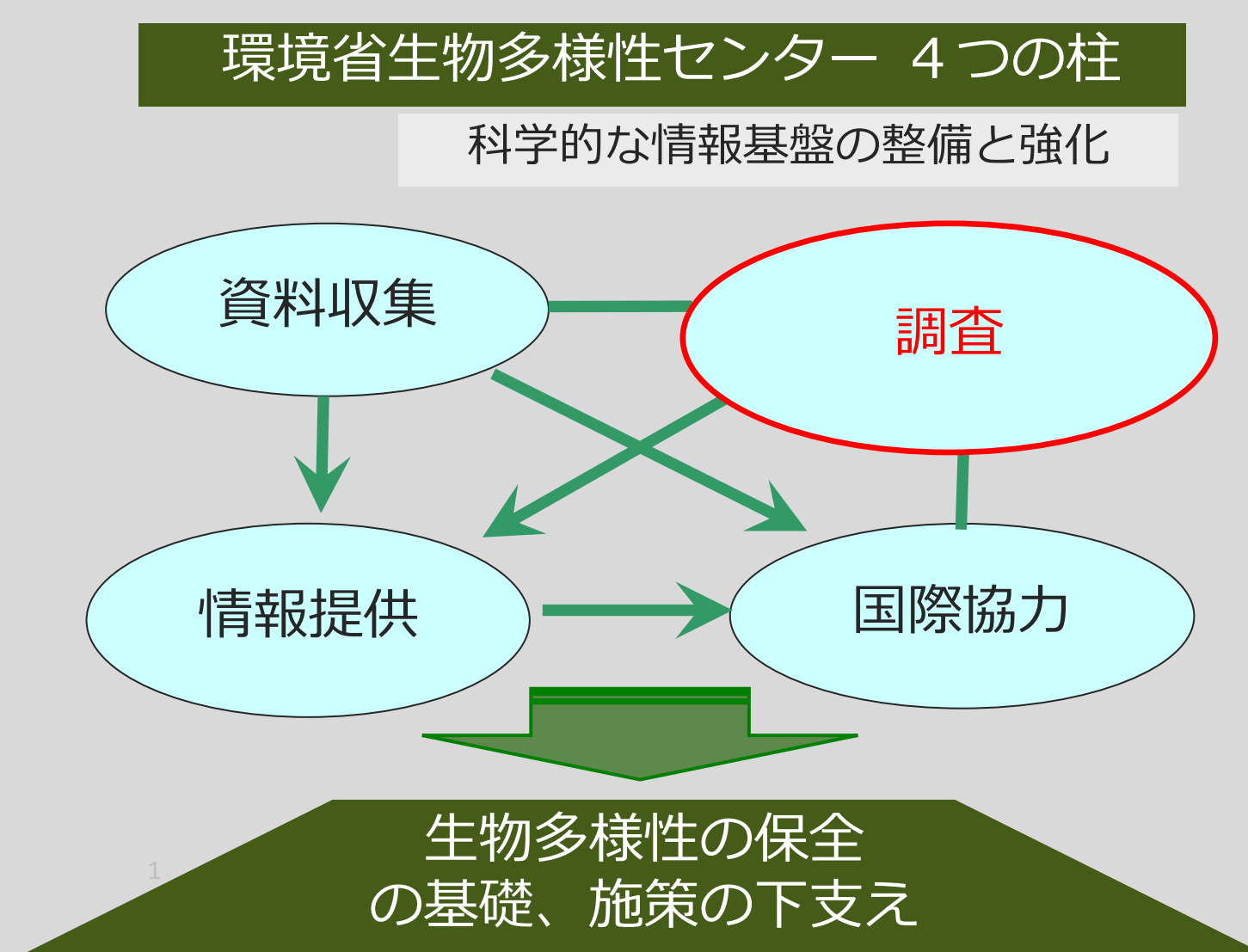


現存植生図GISデータ整備と今後の方向性

山下 慎吾 YAMASHITA, Shingo
(環境省 自然環境局 生物多様性センター)

環境省 自然環境局
生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan
連絡先: biodic_webmaster@env.go.jp

はじめに



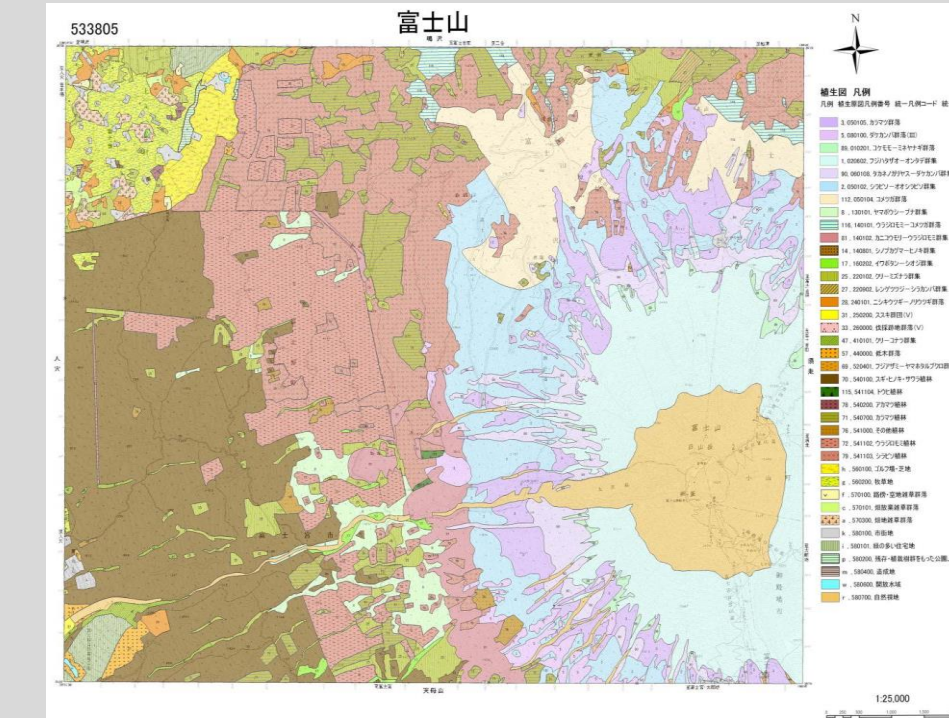
■自然環境保全基礎調査

動植物の分布や現存植生など
自然環境情報の空間的変化の把握

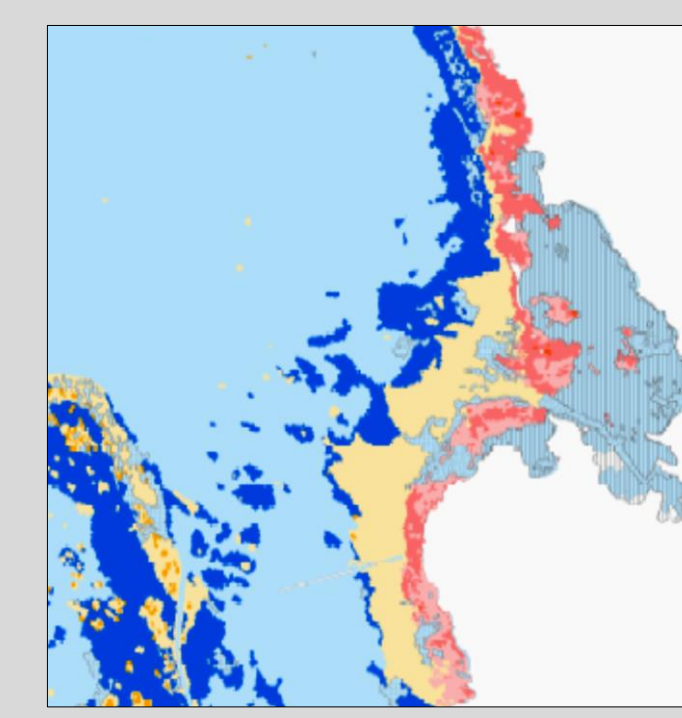
■モニタリングサイト1000

生物多様性の現状と
定量的・質的な時系列変化の把握

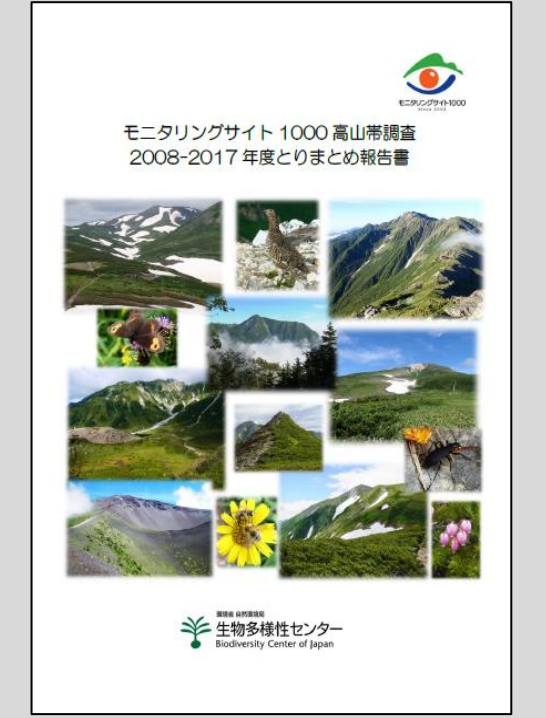
(例)



現存植生図



H30サンゴ礁分布図
(宮古島大浦湾周辺)



モニタリングサイト1000
とりまとめ報告書

原則オープンデータとして公表

<https://www.biodic.go.jp/>

現存植生図の全国整備

- わが国の植生の現況把握を目的として、自然環境保全基礎調査植生調査を実施し、自然環境の把握や保全において重要な基盤情報である現存植生図の整備を進めている。
- 空中写真や衛星画像をもとに群落境界線を抽出し、現地調査により得られた情報を反映。
- 1/25,000現存植生図は、1/50,000現存植生図と比較して、位置精度が向上し、精緻に図化できるようになり、小面積の群落抽出も容易になった。

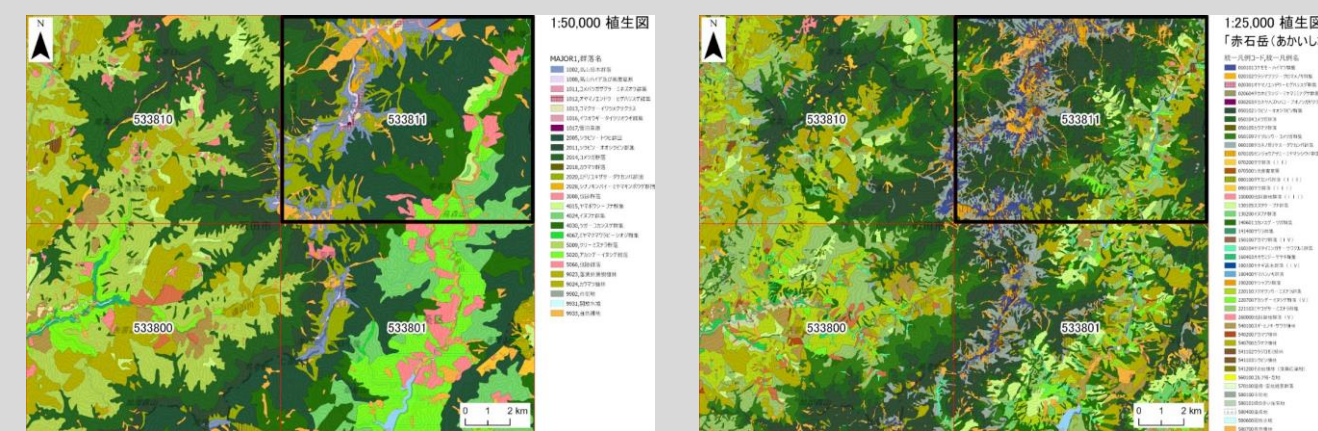
<植生調査の変遷>

1973年 1/200,000 現存植生図の作成

1978-1988年 1/50,000 現存植生図の作成

1988-1999年 1/50,000 植生改変図の作成 (改変部分を更新)

1999-2024年 1/25,000 現存植生図の作成 (2023:全国整備完了, 2024:不整合調整等)



高山植生を含む現存植生図の例
[左:1/50,000 右:1/25,000]

自然環境調査Web-GIS

<http://gis.biodic.go.jp/webgis/>

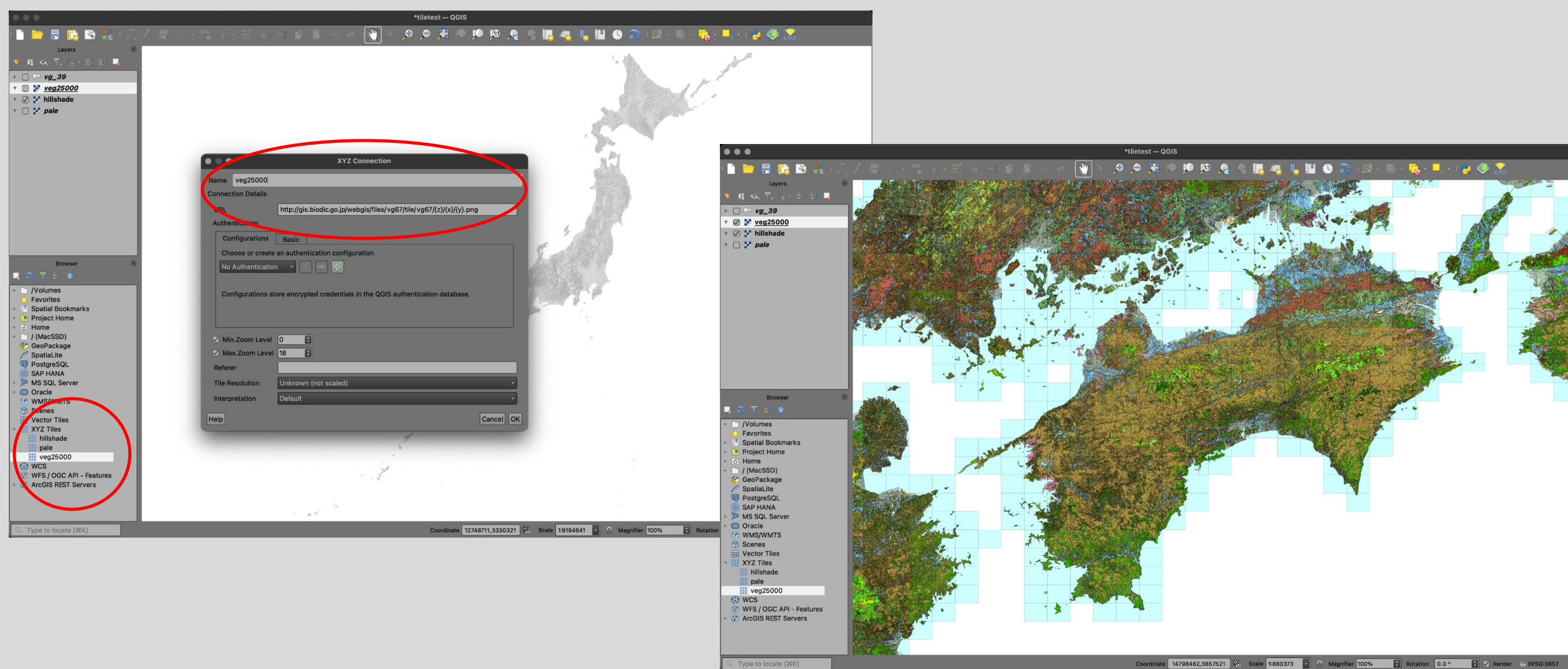


1/25,000現存植生図 Web-GIS表示例

GIS オープンデータ化

オープンソースGISを用いて 現存植生図タイル画像を参照

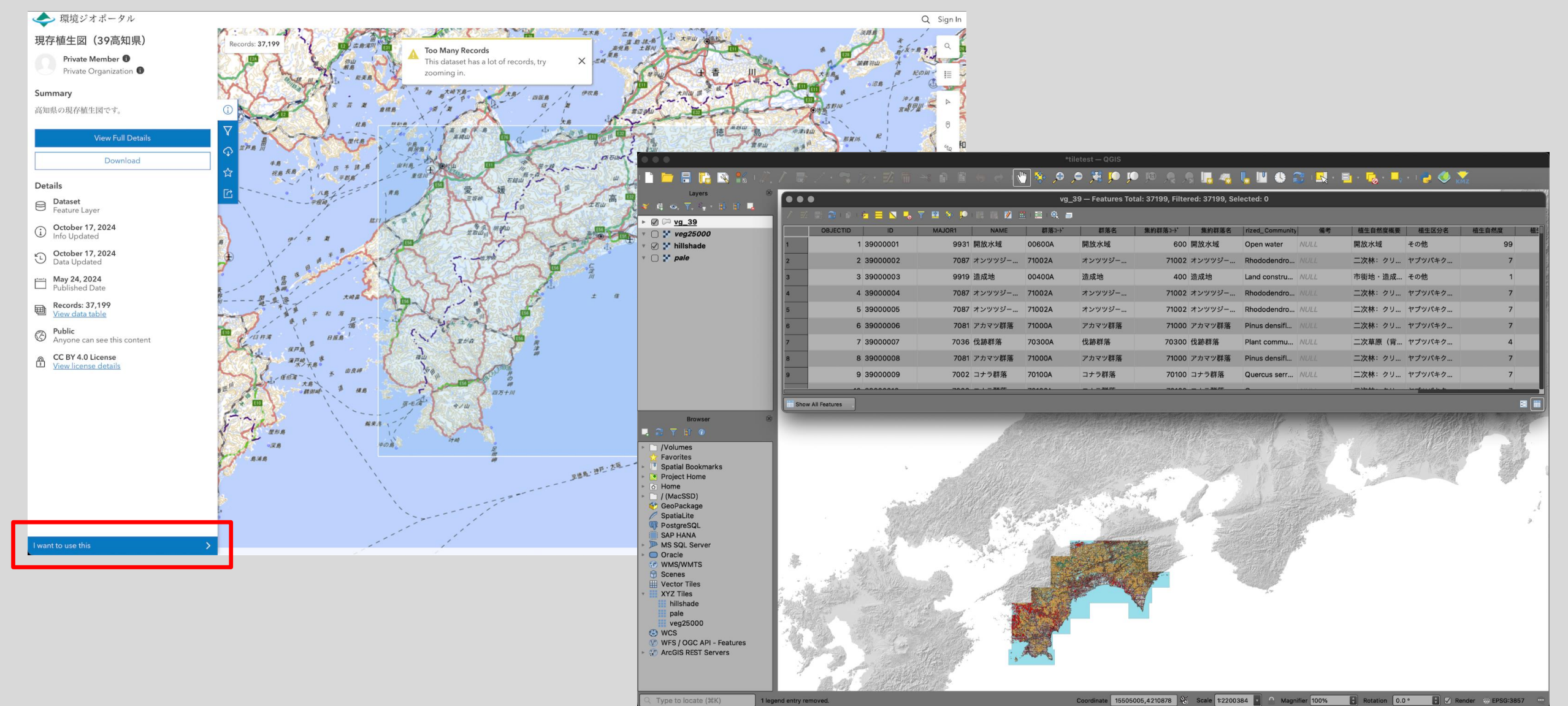
- オープンソースGIS : QGIS <https://www.qgis.org/>
- URLを設定すれば、現存植生図タイル画像を背景情報として利用可能。



<http://gis.biodic.go.jp/webgis/files/vg67/tile/vg67/{z}/{x}/{y}.png>

オープンソースGISを用いて現存植生図ベクタデータを参照 (API)

- 環境ジオポータルに 現存植生図等のデータを順次登録中。
- APIリファレンス情報を用いてQGISでベクターデータを利用可能。



環境ジオポータル <https://geoportal.env.go.jp/>

今後の方向性

- 植生図情報は、自然環境を把握する基盤データとして、様々な研究や施策検討などで活用されている。
- 2023年度までに現存植生図1/25,000の全国整備を完了。2024年度に図幅間不整合調整等を実施中。
- これまでの現存植生図には全国整備に時間がかかりすぎるなどの課題があり、新たな対応策が必要。
- 今後はネイチャーポジティブ活動等に貢献できるよう速報性とわかりやすさを重視した植生図を作成。
- 分類クラス見直しとリモートセンシング技術の積極的活用により、5年,10年で植生図の更新を目指す。

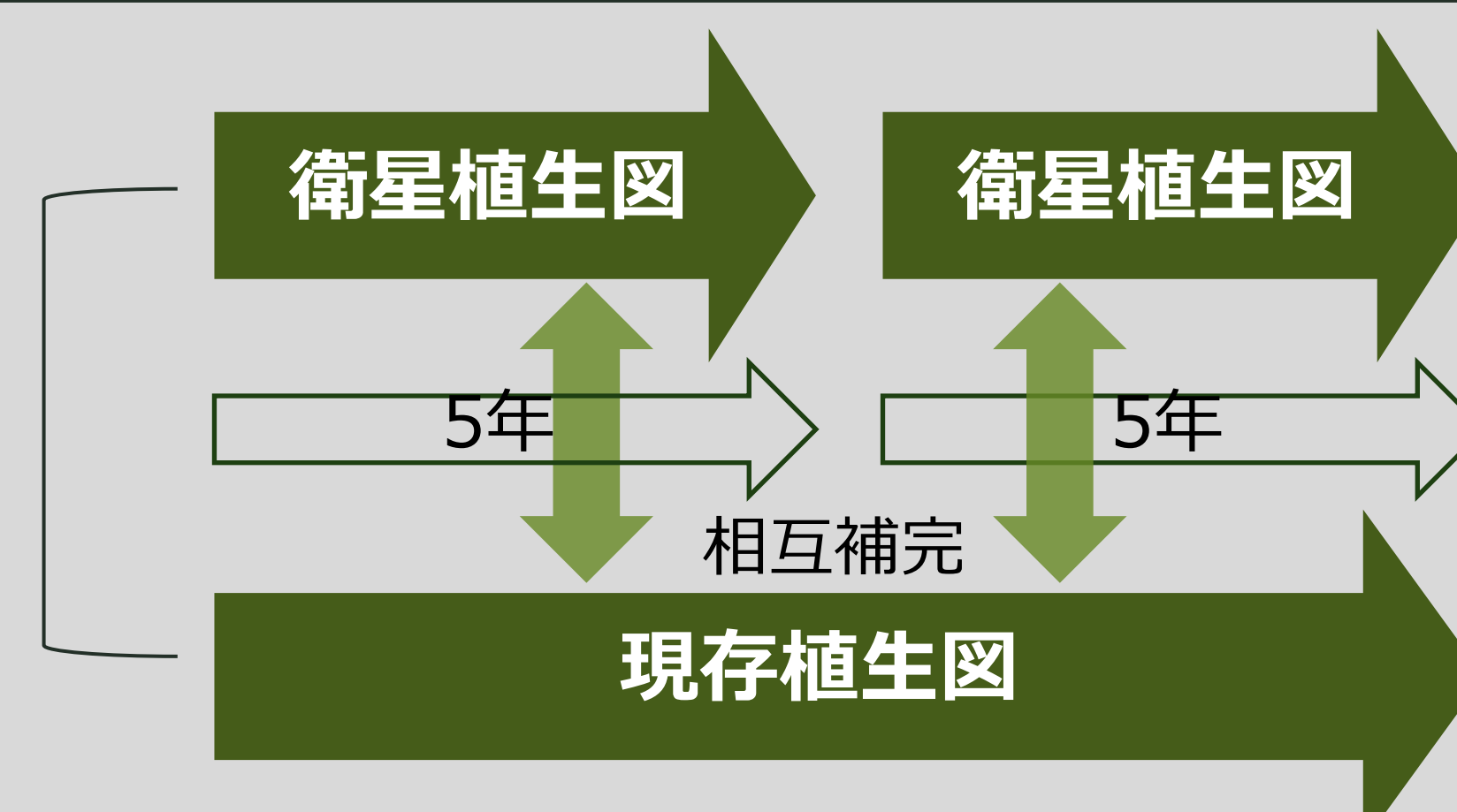
速報性を重視した自然環境情報の整備

(植生図の作成)

<目標>

全国植生図更新期間 25年 ⇒ 5年,10年へ短縮

- 分類クラス見直しとリモートセンシング技術の積極的活用
- 「速報性」と「わかりやすさ」に応じる植生図を全国整備
- 衛星データで把握できない事項は現地調査等により補完



植生図情報を利活用いただいている方々へ：今後の検討に向けて 植生図の利活用事例などをメールにて送っていただけると嬉しいです。

